

## 平成18年度第5回日本生物物理学会運営委員会議事録

日時：2006年11月13日（月）12：30～

場所：沖縄コンベンションセンター C1室

出席者：美宅会長、木寺副会長、石森副会長、宇高、片岡、川戸、神取、園山、出村、徳永、豊島、野地、原田、光岡、倭、由良各運営委員、難波H18年会実行委員長、桑島H19年会実行委員長、河野北海道支部長、本間中部支部長、葛西 Biophysics 編集長、永山委員、河合秘書

### 報告事項：

#### 1 平成18年度年会報告

難波年会実行委員長が、年会の開催状況について報告を行った。13日の午前11時現在、参加者は1100名を超え、順調に推移している。収支は黒字の見通し。以前に問題になった会費未払いの参加者への対応として、年会受付で滞納分の会費を徴収している。

#### 2 賞・助成金推薦委員会報告

2006年度の賞・助成金の学会推薦状況について、木寺副会長から報告があった。学会としての推薦がないものがいくつかあるため、今後の課題として、学会員への周知をさらにはかり、広く応募を募る必要性が指摘された。

#### 3 メディ・イシュについて

メディ・イシュによる学会業務委託の解除通告への対応状況を、美宅会長が報告した。10月末で既に委託業務は停止しており、メディ・イシュは11月末にこれまでの経理処理を終えたい意向。学会事務業務の事業継承先として、毎日コミュニケーションズが推薦されているが、3つの学会の業務委託を行っている程度で、実績は十分でない印象がある。新たな業務委託先の候補の1つである中西印刷については、相当準備が出来ている。

#### 4 生物科学学会連合報告

11月7日に開かれた生物科学学会連合の第17回連絡会議について、川戸委員から報告があった。メディ・イシュの社長が、業務委託解除に関する説明および新たな業務委託先の提案を行った。今回の業務委託解除は契約違反のため、18年度分の委託費は基本的に支払わないことを社長が了解した。このことに関する学会としての対応は、学会連合に所属する他の学会にならうことになった。

### 議題：

#### 1 平成18年度中間決算の承認

経理担当の徳永委員から、18年度中間決算の説明があり、中間決算を承認した。個人情

報保護法の対応のため名簿作成費用がかさんだが、黒字の見通し。

## 2 平成19年度予算案の承認

19年度予算案に関する説明が徳永委員よりあり、予算案を承認した。学会誌（19年度から二色刷・A4版化）印刷費、男女共同参画事業への支出が増加。状況は厳しく、赤字予算となっている。

## 3 会費値上げについて

徳永委員が過去10年間の学会および年会の収支状況についての分析結果を報告し、会費値上げに関して議論した。学会全体としての収支は、年会の収支に大きく依存していることが明らかになり、年会収支の今後の推移を見守り、会費値上げの是非を継続審議することとした。会員管理の適正化、出版・学会事務の効率的な遂行により、今後支出の見直しを進める。

## 4 男女共同参画学協会連絡会に関する事業

男女共同参画学協会連絡会の運営委員会の幹事学会としての活動が10月から始まった。来年度の大きな学会事業の1つとして取り組む方針が、美宅会長より示された。運営委員会の開催とアンケートが主な仕事となる。学会として経済的負担が大きくなることの妥当性に関する議論があった。事務局の人事費について、JSTへ負担を依頼している。

## 5 学会業務委託会社について

メディ・イシュにかわる新たな学会業務委託会社に関して議論した。堅実さ、コストの面から、中西印刷に委託することに決まった。セキュリティーの問題から、学会事務と出版を分けた方が良いのではないかという意見があった。

## 6 物理学会との相互協定について

日本生物物理学会年会および日本物理学会春季大会における講演申し込みに関する、物理学との相互協定を承認した。

## 7 機関リポジトリへの対応について

学会出版物に対する機関リポジトリへの対応については、オリジナルのサイトへのリンクを前提に認めることとした。ただし、会員としての権利の保証の確保は今後の課題であり、議論を継続する。

## 8 次期監事候補者について

児玉孝雄氏の後任監事として石渡信一氏が推薦され、承認した。

## 9 生物科学会連合会について

川戸委員より、生物科学学会連合を NPO として学術会議に登録することが提案され、承認した。

## 10 学術会議への対応について

IUPAB の登録団体となっている学術会議生物物理分科から、2008 年 2 月に Long Beach で開かれる IUPAB 国際会議において 17 件のシンポジウムを推薦したことを、永山委員が報告した。次回はさらに多くの提案をお願いしたいとのことであった。Biological Physics の国際会議は、2007 年 8 月にウルグアイで開催の予定である。